

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490700079		
法人名	株式会社 千怒の杜		
事業所名	グループホーム千怒の杜 (かえで)		
所在地	大分県津久見市千怒7389番地		
自己評価作成日	令和元年 6月 11日	評価結果市町村受理日	令和元年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和元年 7月 22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・健康管理や医療面において、各かかりつけ医と密に連携が取れていることから、日頃から安心して生活を送ることができ、また緊急時でもすぐに対応して頂けています。また当施設の理念でもある『安心して終末期を迎えられる』ことへの対応も十分にできており、ご家族、かかりつけ医と一緒に取り組むことができています。

・施設内での生活のみでなく、屋外への支援をできる限り行なうことで、季節感を感じられ、また楽しんで生活が送れる様に取り組んでいます。

・面会時間などには制限はなく、外出や外泊などへの支援も行なうことで、利用者様が安心して過ごせる様に、またご家族の要望に沿える様に取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は静かな住宅街の一角にあり、日課になっている毎日の散歩を通して地域住民との馴染みの関係ができています
2. 職員間のチームワークがとれており、研修や日常のケアを通して、個々を高める努力をし、業務に反映している
3. 職員の勤務期間が長く、退職者が少ない
4. 母体が医療法人なので連携がとれており、重度化や終末期ケア、看取りもできている

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作った事業所理念を玄関先に掲示しており、より具体的な心得を作って、朝礼で唱和することで、共有し実践できる様にしている。	理念は玄関先に掲示している。理念に沿った七箇条の職員心得を作成し、朝礼で唱和し職員内で共有し実践につなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やご近所の庭の園芸を見せて頂くなどで交流があり、また地域の小学校の行事の参加などでも交流が継続して実施できている。	住宅街の中にあるので、毎朝の散歩を通し地域住民とのなじみの関係ができています。時々、果物や菓子、花などの差し入れがある。また、小学校の行事、マラソン大会や運動会など、利用者とともに応援したり、地区の公民館行事に参加するなど日常的な交流ができています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや施設見学などの希望があればすぐに対応ができる様にしている。また認知症対応の施設ということもあり、災害時には福祉避難所として受入れの準備も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の目標やイベント・避難訓練などの報告、また身体拘束等適正委員会を合わせて実施しており、災害時の対応などの相談やご意見を頂いている。その内容を全体会議の場で職員にも伝えて、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には委員のほか、家族にも毎回参加を呼びかけている。状況報告のほか、身体拘束の事例検討や防災などについて話し合っている。内容は全体会議で全職員へ伝えサービスの向上に活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、行政主催の会議にも出席する等、日頃から迷った時に相談・助言を頂くことで、協力関係を築ける様に努力している。その他に災害時の福祉避難所にもなっている。	市役所には各事業所所定のボックスがある。また、行政主催の勉強会に出席したり、運営推進会議に毎回参加があり、協力関係ができています。事業所は災害時の福祉避難所になっている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束について学ぶ機会を持ち理解を深め、何故いけないのかを知り、皆で身体拘束をしないケアを実践している。また運営推進会議で身体拘束についても話し、外部の目を取り入れることで防止に努めている。	それぞれの利用者の思いを知り、行動の理由を知ることで日常的に施錠しないケアを実践している。年に1度は身体拘束・虐待についての研修会を実施するとともに、日々のケアの中でも職員同士で気づけばお互いに注意し合い、ケアの向上に努めている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学ぶ機会を持ち理解を深め、虐待防止の意識を高め、傷やアザに注視していくことで、見過ごされない様に努めている。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で権利擁護について学び、利用者が活用している状況を具体的に話すことで、今後必要になった場合に支援できる様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を口頭で説明し、不安や具体案を尋ね、十分な説明を行なっている。また事前に医療やターミナルなどについても確認を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置したり、運営推進会議に参加を促すことで、意見表明できる機会を設けている。また普段からメールや面会でコミュニケーションをとることで、意見を言いやすい様に努めている。	家族はよく面会に見える人が多く、職員は意見を出しやすい雰囲気作りに工夫をしている。遠くの家族には手紙やメールで情報提供し家族の意見をいただいている。また、冬は餅つき、5月はバーベキューなどで家族の参加する機会を作っている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で意見・提案を聞く機会を設け反映させている。また普段からコミュニケーションをとることで意見を出しやすい様に努めている。	定例会で意見を出し合い業務改善を行っている。また、職員同士のコミュニケーションがよく、朝礼やミーティングの時なども意見が出て、買い物や休憩時間などの変更など改善につなげている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と気軽に話し合える環境があり、一人ひとりに合った仕事を任せることや諸事情を考慮した労働環境にも努めている。また資格取得に対するサポートもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での勉強会を開催してトレーニングを行っている。また、職員の能力や年数を把握しながら、実践者研修などに参加し、県・市や他施設からの研修の知らせがある時には、掲示して呼びかけて参加もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議や研修会などに参加することで、同業者との交流を増やしている。またそこで得た知識を社内研修で発表することで、サービスの質を向上できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族はもちろんだが、本人からも要望・不安などを聞きとり、本人が安心できる様に信頼関係づくりに努めている。また事前に生活歴や医療などについても確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は特に面談や連絡をする機会を持ち、要望・不安などを聞きとることで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の相談の段階から、できる限りの情報を収集して、導入の段階で再度確認を行っている。またその他のサービスや地域資源の活用、お試しでの入居なども行い、家族の方の負担軽減にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見極めて、できる事は手伝って頂くことで自信を持って暮らせる様にし、一方的に介護を受ける立場にならない様に努めている。また人生の先輩でもある利用者より教わる事も多く、共に生活ができる関係も築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの参加や病院受診など、家族の方にも何かしら役割を持って頂くことで、本人との関係が切れぬ様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅・友人宅・行きつけの店・散髪など、可能な限り関係を継続できる様に、送迎などを行なうことで支援を努めている。また面会時間などを制限せずに、関係が途切れない様にもしている。	馴染みの場所(自宅、友人宅、グランドゴルフ場、美容院、買い物)など、職員が送迎を行い、関係継続支援に努めている。家族や知人などの面会も多く、面会時間を決めずにできるだけゆっくり過ごしていただけるように配慮している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握して適切に距離を取り、上手に役割を分担することで関わり合いを確保して、孤立しない様に支援している。また臥床時間の増えた方でも、リビングや和室などにベッドを設置することで、部屋での孤立を軽減できる様にもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も『気軽に連絡をして下さい』と声をかけ、相談があれば支援する様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への聞きとりや普段の発言・行動から、暮らしの希望・意向を把握できる様に努めている。また困難な場合は本人本位に検討し、主介護者にも相談して、できる限り本人の意見に近い判断ができる様に努めている。	入居時に家族に生活歴を書いてもらい、その人らしさの把握をしている。プラン見直しごとにフェイスシートの見直しも行い、新たな情報を書き込んでいる。本人の意思確認ができない時には家族と話し合い、本人本位に検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービスがあれば情報を頂き、入居時にご家族より事前に生活歴の聞きとりを行なうことで、把握できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	二週間ほどは多めに各記録を残して、現状の把握に努めている。また日常生活の場で確認を行ないながら、月一回の全体会議にて共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面談や月一回の全体会議で大筋の計画を作り、普段の介護の中で気付いた点を皆で意見しあい、調整することで現状に合った計画を作れる様に努力している。また主治医からも情報提供を頂き、参考にしている。	本人や家族の思いや主治医からの情報も取り入れた計画で3ヶ月ごとに見直しを行っている。職員も本人の思いを代弁し、具体的な計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や変化があった時のケース記録、ケアプランの実施状況などを記入してもらっている。また普段の介護の中での意見なども取り入れて、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族からの要望・意見を聞くことでニーズを把握して、外出・外泊支援や定例の行事参加など、できる限り柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や美容室の方に来設してもらい散髪してもらっている。また地域の方に依頼して来設での踊りの披露や、必要な方には訪問マッサージも利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認して、できる限り変更せずに受診・訪問診療できる様に支援している。また普段の生活情報を報告することで、かかりつけ医との信頼関係を築ける様に努めている。	馴染みのかかりつけ医での受診や訪問診療を継続している。受診前に情報提供書を送ると、医師からの受診内容や医療支援計画書が送られ、プランに活かしている。訪問看護や往診も活用し、安心した医療が受けられるよう支援できている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に向けて記録から情報提供書を作成して普段の様子を報告し、往診時に診て頂き適切な医療・看護が受けれる様に支援している。また医療連携をとっている看護師が、週一回利用者の健康状態の確認や、職員とも確認をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携会議や地域包括ケア会議などに参加して、関係づくりを行なっている。また入院時には情報提供を行ない、できる限り面会に行き、担当看護師や医療連携室への相談や退院カンファなどを設けるなど、安心して退院できる様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へできる範囲の医療の説明を行ない、事前確認書を頂いている。また本人の体調や状況に応じて、再度確認をしている。終末期に向けても、事前に終末期のあり方について説明を行ない、状況に応じて家族との確認後には、かかりつけ医へ報告をして、病院・家族・職員全体で取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について、看取りの指針に基づいて事業所のできることを説明し、確約書を整備している。状態変化時は再度話し合い本人や家族の思いに沿った支援をしている。看取りについて職員研修を行い、医療連携も確立され病院、家族、職員全員で取り組んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを職員がすぐに分かる場所に置いており、また、全体会議での勉強会の議題となることもあり訓練はしているが、応急手当の実践があまり無いことから、今後も社内研修を継続していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災と風水害の避難訓練を夜間に想定して、年に1回ずつできる限り利用者へも参加して頂き行い、消防署への通報訓練や訓練後には検討・反省会なども行なっている。また地区の避難訓練への参加や、運営推進会議でも話し合いの機会がある。	火災と風水害時の避難訓練は夜間を想定し、利用者と一緒にしている。職員は地域の避難訓練に参加したり、運営推進会議で話し合いを重ね委員の協力も得られるようになってきている。事業所は福祉避難所になっており、食料や水のほか簡易ベッドなども整備されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいなどに気をつけながら、ご本人の誇りを守れる様に、また排泄の失敗も他者に知られない様な声かけなどを行っている。常日頃から気になる声かけや対応があればその都度注意し合い確認をしている。	職員はプライバシーの確保や尊厳を持った接し方を心がけている。言葉遣いや排泄時の声かけなど特に気をつけ、気になる声かけがあればお互いにその場で注意するよう心がけている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の場所や飲みたい物など、いろいろな事で職員のみが決定するのではなく、まずは利用者に見つけてから、二者択一など簡単に選択できる様にも働きかけている。また、時間を気にせずに行ける限り、自己決定ができる様にも促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間が決まっている中で、起床や食事の時間を少し遅らせる事や入浴、また買い物や散髪、ドライブなどの外出など、できる限り利用者の希望にそえる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時の整髪、衣服の乱れや食後の汚れなどに気を付け、女性利用者には化粧や肌のお手入れ、男性利用者にはヒゲ剃りなどに気を付けながら支援している。また以前からのおしゃれを継続できる様に、家族と一緒にこなしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭き、簡単な食事作りなど、その時の状況や時期によって、できる限り一緒に行なえる様にしている。また利用者の嚥下状態で形状を、嗜好によってはメニューの変更をするなども行なっている。	隣接の厨房で作り運ばれて来るが、土、日曜は職員が買い出しに行き利用者のできることを見極めながら一緒に作るようにしている。おやつも利用者の好みを重視し提供している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事と水分摂取量を記録し、嗜好や食事・水分の形態を把握して、一人ひとりに合った支援をしている。また、摂取量の低下や嚥下状態によって、かかりつけ医などと相談し、高カロリーな食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行なえる方には声かけを、行なえない方には義歯洗浄やジェル・スプレーなどで、口腔内の洗浄・保湿などを行なっている。また口腔ケア用品の破損や残量などにも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日記録をして、毎月の全体会議の場で、排泄パターン・行動・誘導時間などの確認や汚染が増えている方への対応を検討している。またオムツ内ではなく、できる限りPWCへ移乗するなど、排泄ができるように心がけている。	排泄記録や毎日のケアの中での気づきを毎月の全体会議で話し合い、一人ひとりの排泄についての細やかな支援ができています。おむつ使用者も能力に応じ、日中はトイレ、夜間はポータブルトイレでの排泄を促すなど、それぞれの個々に応じた自立支援ができています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食ではバナナや牛乳、その他おやつでヨーグルトやヤクルトなどを提供している。また個々の好みを把握することで、水分摂取が増えるように努めている。その他では排便パターンを把握して、服薬や坐薬を使用して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は毎日、午後からの時間となっているが、その時の状況で午前中でもできる様に、できる限り一人ひとりの希望にそえる様にしている。また入浴を断られることの多い方でも、無理をせず清拭などに変更して対応している。	基本的には毎日午後からとなっているが、希望があれば午前中の中の入浴をすることもできる。できる限り一人ひとりの希望に添えるよう支援している。入浴を嫌がる人も無理強いはせず最低週2回は入浴を促し、また体調が悪い時は清拭や足浴などを行い保清に努めている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った電気の明るさや室温等を本人や職員間で確認しながら支援している。日中は部屋だけではなく、リビングや和室でも休息が取れる様に、また全員が同じ時間に就寝するのではなく個人の希望の時間に合わせている。必要な利用者には服薬の管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテや薬一覧などを職員がすぐわかる様にしている。また、変更や追加があれば、理由や期日なども日誌や申し送りノート等に記載して、職員全員に伝えている。その他にも間違えない様に、声出し確認後に手渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブなど、外出の機会を増やすことで、気分転換や楽しめる様に心がけている。また洗濯干し・たみ、花の水やり、新聞折り、床の掃除など個々に合わせて役割を持てる様に心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散髪などの希望があれば対応できるように努めているが、利用者からの希望が減ってきている。そのため散歩やドライブなどへ行く機会を増やしている。その他ではご自宅への外出や外泊など、ご家族からの要望にも対応している。	毎日、住宅街の中を散歩するのが日課になっている。なじみの場所や人に会いに行く支援も続けているが、年々希望が減っている。そのため散歩やドライブなど戸外に出ることを意識し、車いすの方もできるだけ外気にふれる支援をしている	

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、一緒に買い物に行く等して支援をしているが、現在自己管理ができる利用者がいないため、ご家族より預かり本人からの依頼や必要な物を購入できる様にしている。またドライブなど外出時にも使うことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があればいつでも電話をかけることができる様にしており、携帯電話を使用している方には、異常な使用方法でないか気にかけている。手紙は書けない・読めない方には、届いた時には職員が読み、また同封の写真等があればお部屋の見える場所に置くなどもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで明るさを調整し、換気や消臭、室温調整などに注意している。廊下にはイベント時の写真を掲示して、その他にも花や折り紙の飾り物などを飾る事で季節感も分かる様にしている。リビングではその時の状況でベッドの設置やソファの移動など模様替えも行っている。	共用空間にはソファベッドや椅子などが設えられてそれぞれがゆっくりくつろげ、外庭の四季を感じられる。壁面の思い出の写真や手作りの飾りなどにも季節感が感じられる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファ席があり、気の合う利用者同士で話せる環境を作っている。また和室が隣にあり、ベッドを設置していることで、他者と離れてゆっくりと過ごす事や休む事もできる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り、自宅で使っていた物を持って来てもらう様にしており、足りない物は本人や家族と相談して購入している。また花や写真を飾ったり、ご主人の遺影を置かれている方もいる。その他では使いやすさや転倒防止のための動線の工夫などにも気をつけている。	できるだけ使い慣れた家具やお気に入りの物を持ち込んでもらい、その人らしく過ごせる居場所が作られている。また、面会に見える家族や知人が居室でゆっくりくつろげるようにお茶道具やミニテーブルなどが設置され、それぞれの居室が暮らしやすく、事故防止の配慮がされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室に貼り紙をする事や、電気を点けたままにする事で、迷わない様に配慮をしている。車イスやイスなどの置き場所に注意して、動線の妨げにならない様に、また見やすい場所に時計やカレンダーを設置して見当識への配慮もしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490700079		
法人名	株式会社 千怒の杜		
事業所名	グループホーム 千怒の杜(けやき)		
所在地	大分県津久見市千怒7389番地		
自己評価作成日	令和1年6月11日	評価結果市町村受理日	令和元年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年 7月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から近所の散歩や日曜ドライブ等に出掛けたり外出支援に取り組んでいる。出来る限り本人の意に沿って生活出来る様に心がけ、特に外出・買い物や通院は力を入れて実施している。</li> <li>・母体につくみクリニックがあることで定期的な訪問診療や急変時の対応での連携がとれ安心感を持って生活できる。また看取りに際しても急変時のフォローや家族の泊まり込み等の下生活を継続しつつ、終末期を迎える事が出来る。</li> <li>・ご家族の面会も時間制限などせず気兼ねなく来て頂けるよう努力している。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム 千怒の杜(かえで)に記載】
------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作った事業所理念を玄関先に掲示しており、より具体的な心得を作って朝礼で唱和する事で共有し実践できるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶や庭を見せてもらったりして交流をもち小学校の行事や教会の講話など、イベントを通してつながりや交流を持てるようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや施設見学の希望があればすぐに対応している。認知症施設ということもあり災害時には福祉避難所として受け入れの準備も行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でした報告話し合いに意見を頂いて実践できる様に努力している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、行政主催の会議にも出席するなど、日頃から迷った時に相談助言を頂く事で協力関係を築けるように努力している その他に災害時の福祉避難所にもなっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束について学ぶ機会を持ち、理解を深めなぜいけないのかを知る事で、皆で身体拘束をしないケアを実践している。運営推進会議で身体拘束について話し外部の目を取り入れることで防止に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止の意識を高め、傷やアザに注視していくことで見過ごされないように努めている		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で権利擁護について学び、利用者が活用している状況を具体的に話す事で、今後必要になった場合支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は口頭で説明し、不安具体案を尋ね十分な説明を行っている。また事前に医療やターミナルについても確認を取っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置したり、運営推進会議に参加を促す事で、意見表明できる機会を設けている。また普段からメールや面会でコミュニケーションをとる事で意見を言いやすいように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で意見提案を聞く機会を設け反映させている。また普段からコミュニケーションをとって意見を出しやすいように努力している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と気軽に話し合える環境があり、一人ひとりに合った仕事を任せることや、それぞれの事情を考慮した労働環境を作るよう努めている。また資格取得に関するサポートもある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	車内での勉強会を実施しつつ職員の能力や年数を把握しながら実践者研修などに参加したり外部の研修をがある時はお知らせを掲示して呼びかけて参加もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議や研修会などに参加させることで同業者との交流を増やしている。またそこで得た知識を社内研修で発表したりしてサービスの質を向上出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族はもちろんだが本人からも要望、不安などを聞きとり本人が安心できるように信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は特に面談などの機会を持って不安要望を聞き取る事で関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の相談の段階で出来るだけ情報収集し、導入の段階で再度確認をしている。またその他のサービスや地域資源の活用お試し入居なども活用し家族負担の軽減にも努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見極めて出来ることは手伝って頂いたりして自信を持って暮らせるようにし、一方的に介護を受ける立場にならない様に気をつけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれ家族にあった面会の継続や体調変化時の受診、買い物の依頼イベントへの参加等をしてもらう事で絆を維持して一緒に介護をしていると感じてもらえる様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅、友人宅、行きつけの店、散髪など可能な限り関係を継続出来るように送迎する事で支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握して適切に距離を取り、上手く役割を分担する事で関わり合いを確保して孤立しないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も『気軽に連絡してください』と声をかけ相談があれば支援するように努めている。外出時などにあつたら挨拶や生前の話をしたり、イベントに誘ったりしているが実際の参加にはつながっていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人聞き取りや普段の発言や行動から暮らしの希望意向を把握できるように努めている。困難な場合は本人本位に検討し主介護者と相談して出来るだけ本人の意見に近い判断が出来るように努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービスがあれば連絡して情報を頂き、入居時にご家族へ生活歴の聞き取りをして把握出来るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおまかに生活の流れは作りつつも強制にならないように一人一人のペースを大事にしている。また変化する体調ADLに合わせて介護出来る様に現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面談や月一の会議で大筋の計画を作り、普段の介護の中で気付いた点を皆で意見しあい、調整する事で現状に合った計画を作れるように努力している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や変化があった時のケース記録、ケアプランの実施状況などを記入してもらい、普段の介護の中での意見なども取り入れて介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の意見を聞く事でニーズを把握して外出外泊支援や定例の行事参加など出来る限り柔軟に対応できるように取り組んでいる		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散髪、訪問看護やマッサージなどに加えて、家族や友人の協力なども生かす事で安心安全に暮らせるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞き出来る限り変更せずに受診・訪問診療が受けれるよう支援している また普段の生活情報を報告する事でかかりつけ医の先生と信頼関係を築けるよう留意している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に向けて記録から情報提供書を作り普段の様子を伝えたり、往診に来た時に診て頂いたりして適切な医療看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携会議や地域包括ケア会議に職員参加し関係作りをするとともに入院時はなるべく多く面会に行き担当看護師さんや医療連携室と相談したり退院カンファなどを設け安心して退院できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に出来る医療の説明をしつつどの程度するのか意見交換し大まかな終末期のあり方を把握した上で、本人の体調や状況に応じて都度ご家族と話し合って調整している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故内容を掲示したり、マニュアルを作ったりして事故発生に備えているが、経験が少ないため実践力は全ての職員にはない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災、水害訓練を実施し全職員で避難方法を確認している。また市の指定防災避難所にもなっており地域にも協力できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには普段から皆で注意しているが乱れがないか職員間でも声をかけ合うようにしている。また大勢の前での声かけには特に注意し本人の誇りを守れるよう対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	『何かしたい事は無いですか?』と声をかけたりして、希望を聞きだし可能な限り対応することで、次の希望が出しやすいようにしている。また要望の少ない入居者には選択肢を作って選んでもらう事で自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに生活の流れは作りつつも強制にならないように一人一人のペースを大事にしている。入浴や食事でも強制にならないように注意している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや衣類の選択はできるだけ本人にやっていただき、出来ない場合は職員が補助するようにしている。特にイベント日や外出前などの服装には注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を寄せてくれたり、お盆で下げてくれたり、洗い物をしてくれたり、その人なりに手伝ってもらっている。楽しみが増える様に季節ごとに食べたい物を聞きできる限り提供出来るようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は刻み、ミキサーなどの形態や好き嫌いに注意し水分は居室に水筒を置いたり、トロミやゼリー状に調整したりして量を確保できるようにしている。また摂取量と体重を記録し栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ自分で、出来なくなってきたら動作を補いやってもらっている。口を開けるのが難しい方は口腔ウェットやジェルを使って口腔ケアをしているまた希望者は年に1回口腔検診をしている		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ類使用を勧めるのではなく、できるだけ布パンツで過ごせるように失敗の状況を把握して、声掛け誘導から始めて必要を感じれば尿取パットやオムツ類などを勧めるようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の励行やヨーグルト、牛乳の飲用 頓服薬の使用等で安定した排便につながるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合上曜日を決めてしまっているが本人の意向には出来るだけ対応している。又嫌がっている時は無理強いせず次の日に回したり柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れるようにリズムを作りつつも、疲労を感じた時や本人の状況で昼寝なども取り入れ柔軟に対応できている。必要であれば眠剤も使用して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分包し一回量になったものを渡して飲んで頂いている。用法・用量はお薬手帳で確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干したたみ、新聞折り、台拭き食器洗い等の役割、散歩、おやつ作り、ドライブ等の楽しみ事を用意して気分にあったタイミングで実施出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればできる限り叶えられるように努力している。自宅や友人宅、地域のイベント、法事、結婚式などもご家族と相談して出掛けられるように努めている		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安易に取り上げたりせず 管理ができる限り本人にも少額は管理してもらい買い物出来るようにしている。出来なくなってきたら職員が預かり管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の持ち込みも出来、電話依頼があれば代行してかけて話せるように支援もしている。年賀状や挨拶の手紙、お中元お歳暮なども本人の希望に沿って実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調調節や換気や消臭、日差しのカットに注意したり、季節感を感じれるように季節の花を飾ったりしている。また混乱を招かない様必要ない模様替えは避けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係や時期に合わせて時々模様替えをしたりして上手く距離を取ったり、逆に近づいたり出来るように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物のメリットを伝え持ち込んでもらい本人と相談しながら配置している。また居心地良く安心して過ごせるように本人の能力や動きに合わせて必要時は模様替えもしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した人にはなるべく自分で出来るように、自己管理が難しくなった方には安全に配慮しつつ環境整備しそれぞれのレベルで自立した生活を行なえるように工夫している		